

高齢者事故防止対策



文化ホール前の市道で夜間の怖さを実践体験する高齢者



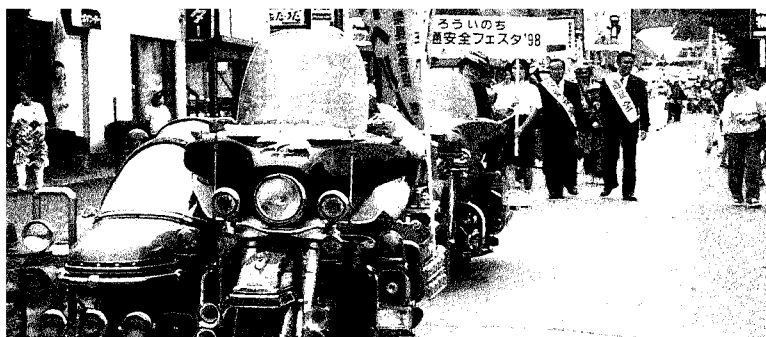
交通安全実践コースの中で指導員の委嘱状を受ける老人クラブ代表者

高齢者の交通事故を減少させるには、運転者の安全への意識改革やお年寄りへの気配りなどが考えられますが、高齢者本人がもっと社会の現状に目を向け、気を付ければ防げる事故も数多くあります。

そこで都留市では、高齢者の夜間交通事故防止を目的に総務庁の委託事業であります「高齢者交通安全実践促進事業」を取り入れ、自分たちの体は自分たちで守るという意識を強く持ってもらいたくため、九月三十日、十月十四日および十五日、文化ホールを会場に三日間で一三三人の高齢者が参加し、交通について学びました。

この事業は、講義中心ではなく、自らの実践体験を主眼におき、交通安全自己診断、交通安全教育ビデオやドライバークラッシュ体験などを実証する体験、蒸気現象（グレア現象）、速度目測実験などを行い、夜間の交通事故を減少させようと企画したものです。

また、この中で老人クラブの会長には、永年の経験と知恵を生かし、地域の高齢者を交通事故から守るためのリーダーとして活躍していただく、「高齢者交通安全指導員」の委嘱も行われました。



ハーレー隊を先頭に交通事故防止を呼びかけるパレード

守るういのち
つる交通安全フェスタ'98開催
文科大学前通りをパレード

九月二十六日、田原三丁目の南都留合同庁舎駐車場をメイン会場に、市民の皆さんに交通安全思想の普及を図るため「つる交通安全フェスタ'98」を開催しました。

式典では、谷一小六年の中村文君が「交通安全の誓い」を行ったほか、小林義光市長が「交通安全対策を積極的に推進する」との交通安全フェスタ'98宣言を力強く読み上げました。

会場では、シートベルトの衝突体験コーナーや交通事故写真展なども行われ、式典終了後は、地元ハーレー隊十七台を先頭に、カラーガード隊・県警音楽隊、「ミニ二大行列」など総勢一五〇名に及ぶパレードが実施され、市民に交通事故防止を呼びかけました。